ゆにわーるど

UNIDO ITPO Tokyo

2009/Ⅱ
Vol.32

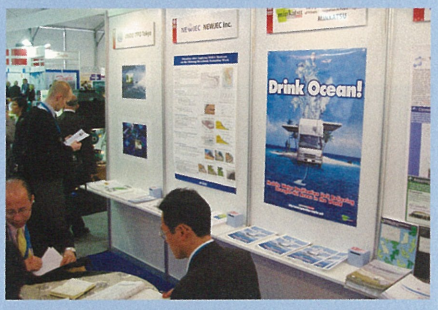
ラテンアメリカ・ミッション

UNIDO工業開発報告書2009
シンポジウム

世界の国から クロアチア共和国

国境の町ビゾヴァツの子どもたち

「第５回世界水フォーラム」に参加



去る３月16日から22日まで、トルコのイスタンブールにおいて「第５回世界水フォーラム」が開催され、２万５千人が来場しました。UNIDOは、東京事務所と本部がそれぞれ「日本パビリオン」と「国連パビリオン」に出展しました。

UNIDO東京事務所が中国経済産業局の協力を得て日本の水技術を紹介したブースには、エジプト、インド、インドネシア、ヨルダン、マレーシア、パキスタン、ロシア、トルコ、ベトナムを始めとする国々の参加者約400人が訪れました。

UNIDO東京事務所では、今後も継続して日本の水技術を海外に紹介するプログラムを計画中で、2009年から2010年にかけては、廃水処理や灌漑、浄水技術等を中心に取り組んでいく予定です。

ラテンアメリカ・ミッション報告

UNIDO東京事務所では4月下旬から5月上旬にかけて、ペルー、ボリビア、エクアドル及びブラジルへとミッションを派遣しました。今年が日系人移住110周年にあたるペルーでは、昨年11月にAPEC総会が成功裏に終了、その際に麻生総理とも二国間の会合を持ったガルシア大統領が、日本とのEPA協定の開始を宣言して、友好関係を一層強固にしたいとし、このため在ペルーの目賀田大使より、是非UNIDO東京事務所の活動をペルーでも広め二国間の協力を進めたいとの強い意向が寄せられました。また、一昨年よりJICAと連携して実施している日系人プロジェクトのフォローアップと今年度の同プロジェクト推進、さらにEPA協定推進を前提とした日本からの投資促進、技術移転促進にも寄与する事からミッションを派遣しました。

日本大使館、JETRO、ペルー日本商工会議所が共催したセミナーでは、多忙な中ミッションに参加していただいたロボットの国際的権威、名古屋大学福田敏男教授による講演が大好評でした。同セミナーにはペルーの有識者約100名が参加し、ペルー側からもプレゼンテーションがなされましたが、UNIDO東京事務所からは、日本の先端技術、環境技術、水処理技術、リサイクル技術等を紹介するとともに、当オフィスのデレゲート（投資・技術移転促進官招聘）プログラム、日系人プロジェクト等をペルー側に直接働きかけ、大きな効果がありました。

日系人プロジェクト参加者による講演（ペルー）

ボリビア科学アカデミー主催による首都ラパスでの日本の先端技術のセミナーでは、最後まで誰一人として席を立つ事のない熱気が立ち込め、現地新聞社からのインタビューを受ける等大盛況でした。ボリビア日系人協会の関係者とも会談、さらに当地の田中大使、JICA事務所とも連携する事が出来ました。また、話題の次世代電池の原材料リチウム埋蔵量が世界一のボリビアでは、リチウム資源を有効に利用し国全体の経済活動を高めようとしています。二階経済産業大臣の訪問や日系商社が積極的にアプローチをしている現状もあり、田中大使より当オフィスの活動を評価いただき、ご支援を戴けるとの有難いお言葉もありました。

ボリビア科学アカデミー

エクアドルでは、スザンナ生産大臣、カルロス投資促進庁長官はじめ多数の政府関係者と意見交換でき、本年秋の大統領訪日の前に、是非デレゲートプログラムを実施したいとの強い意向が示されました。

エクアドル投資促進庁

この3カ国訪問の前に、タイミングよくUNIDO本部のブラジル・ミッションが計画され、これに参加してUNIDO投資・技術移転促進事務所（ITPO）組織のブラジルへの拡大、そしてサトウキビからのエタノール生産において世界をリードするブラジルの製糖工場において環境にやさしいバイオプラスチックの分野での活動検討に貢献できた事は、望外の喜びでした。

UNIDOネットワークの一層の強化、拡大に貢献できたと考えますが、日本との昼夜が正反対の時間差、3000m、4000m級のエクアドル、ボリビアの高地の高山病対策、リマ飛行場の霧、そして帰国の際の豚インフルエンザ騒動には、随分と悩まされたものでした。

製糖工場のバイオプラスチック・プラント（ブラジル）

from the world
世界の国から

クロアチア共和国

Republic of Croatia

マルコ・ユルチッチ氏
クロアチア投資輸出促進庁
戦略企画部　部長
Mr. MARKO JURCIC
Director, Strategic Planning Division
Croatia Trade and Investment
Promotion Agency (APIU)

首都　ザグレブ
面積　5.7万平方キロメートル
（九州の約1.5倍）
人口　444万人（2007年 IMF）
政体　共和制
元首　スティエパン・メシッチ大統領
言語　クロアチア語（公用語）、英語、
ドイツ語、イタリア語
通貨　クーナ（HRK）
日本からの主な進出企業
8社（矢崎総業、日本郵船、
他は販売代理店）

「巨大なEU市場」への物流の新たな拠点として

アドリア海の至宝といわれる美しい国

ヨーロッパ東部バルカン半島に位置し、紺碧のアドリア海に面するクロアチア共和国は、ローマ時代からの繁栄の史跡が残り、風光明媚な山河や湖沼・島々を抱えた豊かな自然が広がる美しい国です。

今回は2度目の来日となりましたが、クロアチアの魅力と可能性を紹介する多くの機会に恵まれ、有意義な3週間の滞在となりました。

ドゥブロヴニクの美しい町並み

観光立国から物流拠点・ハイテク分野へ

クロアチアは過去5年間4～5%の経済成長を続けてきましたが、昨年秋以降の世界同時不況により厳しい経済状況となっています。これまで観光が国内産業において大きな位置を占めてきましたので、1999年のコソボ紛争時に観光客が激減したのと同様の影響を危惧しています。しかし、クロアチアは観光以外の産業にも力を入れており、2010年に正式加盟予定のEU市場における物流の拠点を目指すとともに高付加価値製品の生産基地としての経済的立場を明確にしつつあります。未来に向けて大きな可能性を秘めた国と言えるでしょう。

リエカ港と300を超すビジネスゾーン

海外からの投資を受け入れる体制作りとしてまず挙げられるのは、リエカ港の整備でしょう。過去10年にわたりゲートウエイプロジェクトを進めてきており、大型船舶の着岸が可能な港湾設備が整いつつあります。リエカ港の最大の魅力はEU市場を背後に控えた地理的優位性です。海外からの物流のターミナルとしての機能はもちろん国内で今後生産される高付加価値製品の積出港として大きな役割を担うことが期待されます。

さらに現在、300を超えるビジネスゾーン（工業団地）を国内各地に整備しています。将来的には業種別に集約した特区として、それぞれに高付加価値製品やサービスの拠点として運営していく予定です。特に50～60haの大規模ゾーンが外国企業向けに用意されており、インフラ面での高速道路、電力、

リエカ港

デジタル通信などの充実に加え、ソフト面でも高い教育を受けた人材を供給することができます。また、海外からの企業進出に関しては、ワン・ストップ・ショップ（通称ヒトロ）で会社設立が簡単に手続きできる制度も用意されています。

日本とのビジネスに期待

私は日本が大好きです。特に東京は巨大な国際都市として安心して活動できる魅力あふれる街です。美味しい日本食も堪能できました。

また、今回の来日で日本企業のクロアチアに対する友好的理解を認識することができました。わが国はすべての産業に対してオープンです。物流、ハイテクのみならず、太陽電池やバイオディーゼルなどの代替エネルギーなど様々な分野からの進出を期待しています。

写真提供：大桑千花（ドゥブロヴニク）、ヨーロッパ壁紙写真旅行 Failte（リエカ港）

UNIDO 工業開発報告書 2009 シンポジウム

去る４月14日、東京・渋谷の国連大学エリザベスローズ会議場において、国連工業開発機関は「工業開発報告書（IDR）2009」発刊記念シンポジウムを経済産業省、外務省、国連大学、国際協力機構、日本貿易振興機構アジア経済研究所の協力のもと開催しました。昨年秋の金融不安に端を発した世界同時不況下、グローバル化により多様化する工業生産と貿易の中で、発展途上国や中所得国がいかに付加価値の高い製品の生産体制を整えていくかというテーマについて講演やパネルディスカッションが行われました。

エコフレンドリーな製品の開発を

UNIDO 事務局次長浦元義照氏の開会の挨拶でシンポジウムはスタートし、外務省国際協力局多国間協力課長の植野篤志氏、経済産業省貿易経済協力局技術協力課長の中山亨氏、国連大学事務部長のフランソワ・ダルタニアン博士の3氏が挨拶に立ちました。植野氏は、貧困の削減、女性問題の改善、人間の安全保障の面から報告書を高く評価し、中山氏は経済産業省の途上国への経済支援について中小企業振興、生産性の向上、投資促進、輸出振興、インフラ整備の５つの重点分野での取組みを説明しました。ダルタニアン博士はこれまでと違うエコフレンドリーな工業化の道を提示することで環境を保全し生活を向上させることが大切であると語りました。

植野篤志氏

中山　亨氏

洗練度の高い工業製品製造に特化すべき

引き続き、ブルッキングス研究所客員特別研究員のジョン・ペイジ博士による報告書の概念的枠組みとその政策的有効性についての講演があり、世界的な経済不況の中で人間開発こそが開発援助の要であり、その後に工業開発がついてくるだろうと述べ、途上国においては今こそ産業構造を変革するチャンスであると強調しました。その上で、工業製品は洗練化が大切であり、何を作るかによって経済成長のスピードが違ってくると解説し、集積経済ですべての産業を底上げし洗練度を上げる必要性に言及しました。

ジョン・ペイジ博士

次いで講演を行ったUNIDO 事務局主席アドバイザーのジェバマライ・ヴィナンチアラチ博士は、報告書が長期的視点で纏められていることの重要性を強調し、世界の貿易に占めるハイテク製品の割合の高さを示して輸出においてはいかに洗練された製品の割合を高めるかが課題となってくると説明しました。その上で、ローテクであっても洗練度を高めることは可能であり、農業生産物の付加価値を高める加工産業の重要性について提言しました。

ジェバマライ・
ヴィナンチアラチ博士

一村一品運動の推進を

コーヒーブレイクをはさみパネルディスカッションが行われました。ルワンダ共和国特命全権大使のエミール・ルワマシラボ氏は、アフリカの現状に触れ、マーケットの実情を理解することの大切さを強調。一村一品運動の推進による農業生産物の加工に重点を置いた産業改革の必要性を訴えました。日本貿易振興機構アジア経済研究所アフリカ研究グループ研究員の福西隆弘氏は、アジアよりアフリカの方が製品の製造コストが高い現状を踏まえて新たな政策が必要だと述べるとともに事業環境整備の必要性に言及しました。国際協力機構民間セクター開発上級アドバイザーの上田隆文氏は、報告書がインフラなどのハード面のみならずソフト面にも言及している点を高く評価し、官民のパートナーシップの重要性を訴えました。国連大学の高橋一生教授は、過去60年間の世界経済の大きな動向を成長の成功例と失敗例から紐解き、「脆弱国家」はリベラルな経済パッケージを導入し、インフラの整備を民間主導で行うべきだと述べました。UNIDO 親善大使の原禮之助氏は、経済発展には製品の輸出と国内市場の拡大が大切と述べ、インドのタタ自動車が生産する低価格車ナノカーのこれからの市場拡大の可能性を指摘しました。

エミール・
ルワマシラボ氏

福西隆弘氏

上田隆文氏

高橋一生教授

原禮之助氏

最後に熱心な質疑応答がなされ、UNIDO 東京事務所代表大嶋清治氏の閉会の挨拶を持ってシンポジウムは盛会のうちに終了しました。

発行・お問い合わせ　国際連合工業開発機関　東京投資・技術移転促進事務所
〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-19 ジョワレ半蔵門７階
TEL：03-6826-7010　FAX：03-3288-3300　E-mail：itpotokyo@unido.or.jp
ホームページ：http://www.unido.or.jp

表紙写真　大桑千花